

【関連のあるSDGsの目標】

単元名

大野元気プロジェクトⅠ～身近な地域から学ぶ～



【単元の目標】

世界遺産のある宮島にたくさん人が集まる理由を多面的・多角的に考察・検証し、その結果をスライドにまとめ、発表する活動に取り組む。

【連携諸機関・人物】

廿日市市役所宮島支所
厳島神社
宮島水族館
宮島観光協会
島内の事業所の方々

◆学習活動の実際（全35時間）

学習活動	他教科等との関連
<p>〈学習の見通しを持つ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生での学習を先輩の発表資料から知り、今後の学習の見通しを持つ。 <p>〈課題の設定〉</p> <p>大野に最も近い観光地宮島には、「なぜ多くの人が集まるのか」仮説を立て、検証しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 班ごとに、それぞれ仮説を立て、探究活動を行う。 <p>〈情報収集〉</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用して、宮島について調査する。 インターネットで得た情報をもとに、人が集まる理由の仮説を立てる。 <p>〈計画の立案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮説検証のための調査計画を立てる。 (訪問場所・質問相手等具体的な内容や活動時間、活動経費等を検討する) <p>〈現地調査を実施するために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞記者による取材方法の講座を受け、具体的な取材方法について学ぶ。 マナー講座により、インタビューの仕方や訪問の仕方を学ぶ。 <p>〈現地調査の実施〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 立てた計画に沿って、必要な情報を集めるために訪問、インタビュー、撮影活動を行う。 <p>〈検証結果をスライドにまとめる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べてわかったことを図や表、グラフ、撮影してきた写真などを用いてまとめる。まとめの際には、パワーポイントを活用し、スライドにまとめる。 仮説・検証が論理的にまとまっているか検討をする。 学級でそれぞれの班が発表し、学級代表が学年発表を行う。 <p>〈振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りを行い、地域に参画することの必要性について考える。 	<p>【技術】</p> <p>「ICT 機器の活用」の学習を「インターネット検索」に活用した。</p> <p>【国語】</p> <p>「会話がはずむ質問を考えよう」の学習を「相手に合わせた質問の作成」に活用した。</p> <p>【英語】</p> <p>「道案内の学習」を「外国人観光客のインタビュー」に活用した。</p> <p>【国語】</p> <p>「目的に合わせて伝える内容や表現方法を工夫する学習」を「スライド発表原稿作成」に活用した。</p> <p>【技術】</p> <p>「ICT 機器の活用」の学習を「パワーポイントによるスライド作成」に活用した。</p>



〈宮島での現地調査〉

【児童生徒の感想・振り返り】

- ・「店の思いが客に伝わる」ことが分かれれば仮説が立証できると思い、インタビューを100人にした。班員と協力して根拠のある内容にできた。グラフや数値、表現の仕方を工夫してなるべく伝わりやすいように工夫した。何度も仮説を疑って調査をするのもっと内容の濃いものになっていたと思う。
- ・宮島を調べて、大野のよさは「大野自然観察の森で、もみじが見られるなど自然を感じられる」「カキ、あなごが食べられる」「神社で様々な行事やお祭りがある」ことではないかと思った。
- ・宮島支所では1つ1つの質問に丁寧に答えてくださった。あなご飯ふじた屋ではお店の中は和の感じで、ミシュランガイドにのるすごい店だということが分かった。杓子の家では資料や実物を見せていただきわかりやすかった。もみじ堂では無料で飲めるお茶や、あげもみ神社がありおもてなしの設備が整っていた。その後観光客にインタビューをしたところ、宮島のサービスに満足している人がほとんどだった。

【効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について】



【児童生徒の変容】

- ・自分たちの視点を持たせて、調査活動をした。
- ・プロジェクト全体（3年間）のゴールイメージを示し、総合的な学習の時間の見通しをもたせた。
- ・仮説→検証→考察→発表の流れを学習の中で一貫させ、まとめにも意識をさせた。
- ・新聞記者から取材の仕方を学び、インタビュー活動や現地調査の場を設定した。

- ・大野のよさに気づくことができた。
- ・ゴールイメージからやるべきことを逆方向に考え、調査やまとめの計画を主体的に考える姿が見られた。
- ・班ごとに仕上げたスライドに生徒個々の学習の内容や流れが入り込んだまとめができた。
- ・仮説検証に向けて、観光客や事業所の方の思いを聞き取るなど、目的意識を持った現地調査活動ができた。また、具体的な調査活動により、まちづくりに必要な要素をつかむことができた。

【今後に向けた「改善点】

- ・自分たちが住む地域に愛着や誇りを持たせることができるように、もう少し具体的に目的意識を持たせた学習展開を考える。